東京アニメーションカレッジ専門学校 専門課程

2022年度 学校関係者評価報告書

（基準日２０２３年３月３１日）

学校法人 創都学園
東京アニメーションカレッジ専門学校

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内における PDCA サイクルの確立を目指し自己評価・学校関係者評価を行っています。　より充実した、教育環境と在校生・卒業生のサポート体制確立に向けさらなる努力をしていく所存でございます。本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2023 年 4 月

学校法人創都学園

東京アニメーションカレッジ専門学校

学校長 田中 道信

＜学校関係者評価委員会＞

□地域関係者	上野昭子	新宿区戸塚地区民生委員・児童委員協議会
□業界関係者	楢戸　雅也	(有)ナラト代表取締役
□卒業生	児玉恒士	アニメ声優コース　4 期生（2011 年度生）
□学校関係者	田中道信	東京アニメーションカレッジ専門学校　学校長
	伊藤恒幸	東京アニメーションカレッジ専門学校 就職・デビューセンター室長
	稲見千春	東京アニメーションカレッジ専門学校　教務主任
	三岳博隆	学校法人創都学園 事務長

＜実施概要＞

・学生授業アンケート（2022 年度）

・自己評価表・学生アンケート集計・学内視察・学校関係者からの現状報告等をもとに、学校関係者評価委員会において討議。

改善点・対策・今後の課題などについて討議（2022 年度）

東京アニメーションカレッジ専門学校 専門課程 2021 年度学校関係者評価会議

・学校長より職業実践専門課程・修学支援新制度（高等教育無償化）など状況報告
・前回の討議内容の確認
・自己評価表の内容を確認しつつ意見交換の実施
・各授業終了時に行った学生アンケート内容を確認しながら討議
・その他自由意見交換

■2022 年度自己評価表について

1. 教育理念・目的・人材育成像

□1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

アニメーション・マンガ・イラスト・声優各業界のニーズを把握しカリキュラムに入れ込んでいく為に、教育課程編成委員会で様々な意見交換を実施している。
時代によって変わっていくものと、時代に左右されず変わらないものがあるので、業界の流れをしっかり見極めていきたい。
また、先端の技術が教えられるように、機材だけでなく教員側の技術の更新も行っていきたい。

2. 学校運営

□2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか

目的や運営方針については毎年2回、前期後期の始まりに全体講師会を通じて今期の方針を打出している。

□2-8 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか

各種会議において意見の収集を行い協議しながら意思決定を行っており、徐々にさまざまな業務において改善が行われてきている。

3. 教育活動

□3-17 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

実際にアニメスタジオで新人研修など行なっていた現役でプロとして活躍中の講師が現場同様の技術指導を行っているが、新しい意見を取り入れながら時代に即した内容になる様更新していきたい。

□3-18 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか

日本動画協会主催のアニメ人材パートナーズフォーラム（AJPF）への参加や日本声優事業者協議会の賛助会員など、業界との連携を図りながら改善に取り組んでいる。
また、教育課程編成委員会には各業界の有識者や役員などに入っていただき、貴重な意見を頂戴して改善に取り組んでいる。

□3-22 ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

全体での成績バランスを確認できるよう GPA などを使い成績分布の視覚化を行い改善につなげている。

担任と講師ですり合わせを行い基準のずれを修正している。

□3-26 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

アニメ人材パートナーズフォーラムや日本声優事業者協議会主催などのセミナーを中心に、最新の情報収

集に努めると共に、教員の質、授業内容の質的向上に取り組んでいる。

4. 学修成果

□4-28 就職率の向上が図られているか

就職指導は様々な取り組みを増やし年々充実度を増してきているが、主体性を持ち能動的に行動する学生が減少している印象がある。主体性を育てる教育に力点を置いていきたい。

コロナ禍の中アニメ業界は盛り上がりを見せており、2022 年度はかなりの向上が見られ今までの中でもトップクラスの就職率となった。

□4-30 退学率の低減が図られているか

親子間の関係性に問題を抱えている学生が多く、メンタルが不安定になりそれが周りに伝播していった印象で、退学率にも大きく影響した。家庭内の問題を解決とまではいかなくとも勉学に影響が出ない程度に心を前向きに持っていくよう担任は努力をしている。

□4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

卒業生ゲストを招いて在校生へ向けて特別授業を実施することで、在校生の将来の指針とするとともにカリキュラム改善のヒアリングなども行っている。

5. 学生支援

□5-37 保護者と適切に連携しているか

保護者懇談会・三者面談を実施し連携を図ると共に、学生に変化が見られた際は担任が保護者に連絡を取るようにしている。

□5-38 卒業生への支援体制はあるか

フォーエバーサポートを設けており、在学中同様のサポートを継続して受けられるようにしている。卒業後も学校機材・設備の使用や作品指導・各種相談など様々なサポートを行っている。
学校宛てにイラストや声の仕事など各種仕事の依頼が来ることもあり、卒業生にも仕事の斡旋を行っている。

6. 教育環境

□6-41 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

機材など定期的に入れ替えを行うことで、一定期間ごとに機材が最新版になるよう配慮し業界での実務に十分対応できるものとなっている。

□6-43 防災に対する体制は整備されているか

防災は非常用食品をはじめ、発電機、飲料水、防寒シート、マスク、コンロ、紙皿、他多品目を準備すると共に避難訓練も毎年実施している。

7. 学生の受入れ募集

□7-46 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか

パンフレットやホームページに記載している他、卒業生の就職実績やオーディション結果などより詳しく取りまとめたプリントを作成し、オープンキャンパスなど来校者に配布している。

9. 法令等の遵守

□9-54 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

毎週の会議の中で改善点について話しあっている他、前期・後期終了時に実施する学生アンケートにより問題点を模索し改善に努めている。

10. 社会貢献・地域貢献

□10-56 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

コロナ前には近隣の小学生に絵本読み聞かせ講座を実施するなど新たな試みを推進していたがコロナ禍で実施できない状況が続いたが 2023 年度に向け再開を検討していく。

□10-57 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

戸塚地区協議会での高田馬場駅早稲田口クリーンキャンペーン清掃活動へ毎月ボランティア活動として参加している。

■学生アンケートに基づく意見・問題提議など

アンケートの内容だけにとどまらず、下記のような内容についてどのように改善を図っていくか討議を実施した。

・人間関係についてコミュニケーション不足をいかに解消していくか。
・早期にうまくコミュニケーションがとれるようにすることが今後の課題。
・全体のモチベーションをどう底上げしていくか。
・メンタル面のサポートをどのように行いモチベーションを維持していくか。